年末年始のお休み

もりおか町家物語館
12月29日（土）～
1月3日（木）

風のスタジオ・肴町事務所
12月28日（金）～
1月3日（木）

風のスタジオ公演情報

いわてアートサポートセンター

岩手大学劇団かっぱ２０１８年冬期公演
「４つ打ちノーザンロック」

日　時　12月8日(土)　14:00～／19:00～
　　12月9日(日)　11:00～／14:00～
　　（開場は開演の30分前）
料　金　一般1000円　学生800円　高校生以下500円
　　※当日各200円増
　　※リピーター割 公演の半券提示で500円で観劇できます
問合せ　080－9070－6693（制作）
　　kappa_iwatedai@yahoo.co.jp

劇団もりのべる第17回定期公演
「チョコレート大変革」

日　時　12月15日(土)　14:00～／19:00～
　　12月16日(日)　14:00～
　　（開場は開演の30分前）
料　金　前売共通500円　当日一般800円
　　当日学生500円
問合せ　morinobell@gmail.com

いわてアートサポートセンターチャレンジシアター
初代 中屋仁造　コント＆トークライブ　vol.1
「夜明けのブラザーズ」

日　時　12月23日(日)　17:00～
　　（開場は開演の15分前）
料　金　前売500円　当日800円
問合せ　090－9745－5123
　　nakayakimizou@gmail.com

鉈屋町界隈イベント情報

井戸の月 十二月 演奏会

佐々木龍大と井戸の月演奏会

日　時　2018年12月8日（土）　16時開場 /17時開演
会　場　some-mono 佐々木龍大 gallery
　　（大慈寺町 4-13）
料　金　2,500円（1ドリンク付）
ドリンク・フード出店 nutmeg（ナツメグ）
【問合せ】sunnyson7@gmail.com

発行者　特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

【本部】
〒020-0874 盛岡市南大通1丁目15-7 南大通ビル3階
TEL (019)656-8145　FAX (019)656-8146
E-mail info@iwate-arts.jp　URL http://iwate-arts.jp

【肴町事務所・風のスタジオ】
〒020-0878 盛岡市肴町4-20 永卯ビル3階
TEL (019)604-9020　FAX (019)604-9021
E-mail kaze@iwate-arts.jp　URL http://iwate-arts.jp
〈窓口営業時間〉火・水・金 10:00~18:30　木・土 10:00~17:00
〈施設利用可能時間〉9:30~21:30

【もりおか町家物語館】
〒020-0827 岩手県盛岡市鉈屋町10-8
TEL (019)654-2911　FAX (019)654-2913
E-mail machiya@iwate-arts.jp　URL http://machiya.iwate-arts.jp
〈開館時間〉9:00~19:00（最終入館 18:30）※浜藤ホールのみ利用時は21:30まで
〈休館日〉毎月第4火曜（休日の場合はその翌日）年末年始 12/29 ～ 1/3
〈入館料〉無料 ※一部企画展は有料の場合があります。

◎プレイガイドをご利用下さい！
肴町事務所・風のスタジオ窓口と、もりおか町家物語館案内所には、プレイガイドを設置しております。販売手数料5%（消費税込み）で、イベントチケットをお預かりしています。直接ご来館のうえ、職員にお声がけください。

12.2018

もりおか町家・風の通信
12月号

今年のクリスマスは大安なのよ

当館キャラクター
マチコちゃん♪

もりおか町家物語館

第５回　森 荘已池（もり そういち）劇場
劇団赤い風　第 80 回公演

語りと生演奏と人形によるリーディングシアター

「生と死と」

原作 / 森 荘已池　脚本・演出 / 坂田 裕一

岩手県初の直木賞作家、森 荘已池が戦後初めて書き下ろした作品。

舞台は戦後間もなくの盛岡。

今では読むことの出来ない名作が、朗読劇でよみがえります。

出演
大森健一　おきあんご　坂戸公輝　佐藤結子
清水友博　霜月漣　東海林めあり　永井志穂
沼田永和　メグミ　目黒千恵子

日時　12 月 15 日（土）14：00/18：00
16 日（日）14：00
＊開場は開演の 30 分前

場所　もりおか町家物語館 浜藤ホール
料金　一般前売　1,200 円 / 学生前売　1,000 円
（当日は前売の 300 円増）

【予約方法】
電話またはメールにて以下をお知らせ下さい。
①お名前（漢字表記 / フリガナ）②ご希望枚数・券種
③ご連絡先お電話番号
＊メールの件名は「生と死と チケット希望」でお願いいたします。

TEL：019-654-2911　mail：machiya@iwate-arts.jp

《関連企画》
森　荘已池の肖像展

岩手県初の直木賞受賞作家であり、生涯鉈屋町で暮らした森 荘已池の貴重な直筆原稿や記録写真などを展示します。

日　時　12 月 8 日（土）～ 27 日（木）
※12 月 25 日（火）は休館日
9：00 ～ 19：00（最終入場 18：30）

場　所　もりおか町家物語館 文庫蔵 1 階
縁の資料室

入場無料

事業報告

もりおかお酒の学校～ワイン編～

当イベントは、昔懐かしいもりおか町家でワインを味わい、知識を深める講座として始まり今年で4年目となりました。

講師にはワインコーディネーターの福井富士子さんをお迎えし、前年度は「旧大陸ワインVS新大陸ワイン」、そして今年度は「イタリアワイン」をテーマに、前期は5・6・7月、後期は9・10・11月の計6回を開催しました。

参加者の皆さんがテイスティングしたワインについての感想を話しながら多種多様なイタリアワインの新たな魅力や楽しみ方を見つけ、ワインの奥深さを感じられる講座となりました。

来年度も新たなワイン編講座を開催予定です。お楽しみに！

もりおか町家物語館 平成30年度鑑賞事業・したまち小劇場祭2019

国重要無形民俗文化財　**黒森神楽　盛岡巡行**

平成 31 年 2 月 2 日（土）　もりおか町家物語館にて
◎シットギ獅子舞込 11：00 ～「風の広場」◆観覧自由
◎神楽公演 13：00 ～（12：30 開場）「浜藤ホール」◆有料観覧

有料観覧券　前売 1,500 円（当日 1,800 円）
※未就学児無料　※前売完売の際は当日券はございません

【販売・予約開始】　12 月 5 日（水）9：00 ～
電話予約　019-654-2911（もりおか町家物語館）
[プレイガイド] いわてアートサポートセンター風のスタジオ / カワトク / プラザおでって / もりおか町家物語館

カフェ DOMA

加村 なつえ個展
Ovo de Revo [vol.02 2018winter]
12 月 2 日（日）～ 12 月 24 日（月）
※最終日は 16：00 まで

営業時間 /11:00−16:00
定休日 / 毎週火・水曜日　休館日・12 月 25 日（火）

カフェの営業時間外も、施設開館中は見学可能です。
臨時休業の場合もございます。
営業時間はホームページ等でご確認ください。

◆大正蔵 1F「時空の商店街」営業時間のお知らせ◆
11 月 1 日～ 3 月 31 日　冬季営業時間　10：00 ～ 17：00 となります

リレーコラム No.32
森荘已池の肖像

森荘已池（本名佐一）は、明治四十年五月三日に、盛岡市惣門の江戸時代から続いた八百屋の、森佐吉、ツネの長男として、生を受けた。佐吉とツネは、長男ということで、目に入れてもおかしくないほどの愛情を持って育てた。父佐吉は日本鉄道の鉄道員で機関士であった。左右の視力が極端に異なり、採用試験の際に、視力検査表を全部暗記して受験したという逸話が残っている。私の視力も極端に違うことを父に言ったら、「それは隔世遺伝かもしれない」と話し、祖父佐吉の思い出ばなしをするのであった。森家の生活が肩にかかっていたこともあり、真剣な努力の末、合格を勝ち取ったといえる。母ツネは夫が機関士として上野まで出張し、留守の時、息子や娘に、「赤い鳥」や、新聞小説を読み聞かせをしていた。それが、佐一の小説家としての素地を育てることになる。視力についていうと現代の医学の進歩で、自動車学校で、免許を取るときは、視野テストを受け、無事、合格していただろう。

森佐一は、隣人の啄木の友人平野八兵衛の影響を受け、ペンネームを5つ持つ作家・詩人であり、歴史家の顔も持っている。不思議な肖像画の主と言わざるをえない。本人は、「佐一」名は、「森」の姓に画数が合わないから、「惣一」、と名乗り最終的には「荘已池」と自ら名付けて作家活動をしていた。実は、森家は代々長男が若くして夭折しており、そのことを気にしていた。近所の酒屋の近くに、易者が店を出しており、幼少のころ、興味深く、八卦の仕事ぶりを見ていた。その由縁で佐一は、成長して四柱推命学に関心をもち、宮沢賢治が昭和8年9月21日亡くなった後、遺族から形見にと頂戴した賢治愛用の特注した独特の作りの本棚に占いの本が数冊あった。親戚や近所の人から子供が生まれると名付け親になることを依頼され、喜んで字画を占い、漢字の種類や響きを研究して命名していた。

佐一とタミとは、報知新聞社にタミが解字工として勤務し同社の石川暁舟の文芸誌「暁」にタミが詩を投稿。『草いちご』という詩集を発行。佐一も同人で『郷土愛誦詩篇』を刊行し知り合った。岩手詩人協会を立ち上げ生出桃星と「貌」を編集。賢治の『心象スケッチ　春と修羅』を読み驚愕し同人になることを書簡で依頼。芥川賞候補となる小説集『店頭』に記載されているように、賢治が店頭を訪問し、10年の交友が始まる。素晴らしい機縁による、芸術的な、あるいは、文学的な北国盛岡での暮らしがあったのだ。

三女　森 三紗